

宇地泊歴史文化遺産マップ

※私有地にある場合もあるので、見学の際は注意しましょう



- ① 宇地泊 兼久原遺跡群**
約6000年前から琉球王府時代まで続く遺跡で、人々の住んだ跡や埋葬した跡なども見つかりました。
- ② ナークガマ**
浜下りや屋敷の厄払いの時に利用したところと伝わっています。
- ③ マヤーガマ**
マクジャーガマとも呼ばれます。昔のお墓として利用された場所です。
- ④ 宇魂之塔**
戦没者慰霊の為、1956(昭和31)年12月に建立されました。93柱の戦没者を祀っています。
- ⑤ 宇地泊のターブックワ**
豊かな水田が広がり、田芋の生産も盛んでした。(個人所蔵)
- ⑥ ウグワンシー山**
宇地泊の聖地のひとつで、現在の宇地泊バス停付近にありました。周辺には松などの樹木が生え、真ん中に大きな岩があり、その前に3個の海石が安置されていたと伝わっています。
- ⑦ 沖縄県営軽便鉄道「大謝名駅」**
ケーブルの愛称で知られる沖縄県営軽便鉄道の嘉手納線(1922年開通)において、宜野湾村(当時)には、大謝名駅、真志喜駅、大山駅が設置されました。
- ⑧ 宇地泊西原丘陵古墓群**
約190基の墓が確認されており、宜野湾市内の墓の造りや埋葬の様子を知る上で重要な古墓群です。また、陣地壕も確認されています。

- ⑨ クンカー**
宇地泊のウブガーで、若水(ワカミジ)や産水(ウブミジ)を汲んだ湧水です。
- ⑩ ヒートウージー**
宇地泊一帯を見晴らす高台にある岩で、旧暦4月1日の海神祭(ウミノウグワン)の際に自然の恵みに感謝をする場所です。ヒートウージーの側にあるヒートウモ(イリヌモ)と呼ばれる広場では、捕獲したイルカを解体し、地域住民に分配しました。
- ⑪ 龍宮神**
海の神様を祀る拝所です。旧暦4月1日の海神祭(ウミノウグワン)においても拜まれます。
- ⑫ 合祀所**
合祀所に向かって、左側に「西のうたき」、「屋号:大屋(ウフヤ)の火の神」、「宇地泊の火の神」が、右側に「東のうたき」、「屋号:宮里(ナーザト)の海神様」が祀られています。
- ⑬ 浦添 牧港の風景**
1853~54年に琉球を訪れたペリー提督に同行した画家、ウィリアム・ハイネによって描かれました。(沖縄県立博物館・美術館 所蔵)
- ⑭ 奥間ノ口墓**
この地域を管轄していた謝名(真志喜)ノロが葬られたお墓です。当初はハンタヌシチャーと呼ばれる崖地にありましたが、現在地へ移されました。
- ⑮ 昭和初期の宇地泊の入江**
昭和10年頃の宇地泊の入江を撮影した貴重な写真です。山原船の後ろに牧港橋が見えます。(沖縄市立郷土博物館 所蔵)
- ⑯ キャンプ・ブーン**
憲兵隊司令部や陸軍中央バス発行所、陸軍の民間人事部などの施設として使用されていました。1974(昭和49)年全面返還されました。
- ⑰ 真砂の碑**
うちどまり 真砂子 ていーたる 粉らしゆる 御月 粉さしゆる 浜の真砂子 琉歌「宇地泊節」として謳われる美しい浜辺、真砂(まさご)の浜の情景があったことを後世に伝える為に設置されました。
- ⑱ 南部警備大隊**
復帰前、米軍施設等の警備を担当する軍雇用員で構成され、当時の軍道30号線以南を管轄していました。(個人所蔵)

●は、旧暦4月1日の海神祭(ウミノウグワン)関連